



三滝だより

NO. 260

2022年7月15日発行

すいきんちかもくどってんかい 水金地火木土天海

「水金地火木土天海」を聞いたことがありますか？「水は水星、金は金星、

地は地球、火は火星、木は木星、土は土星、天は天王星、海は海王星」のこと

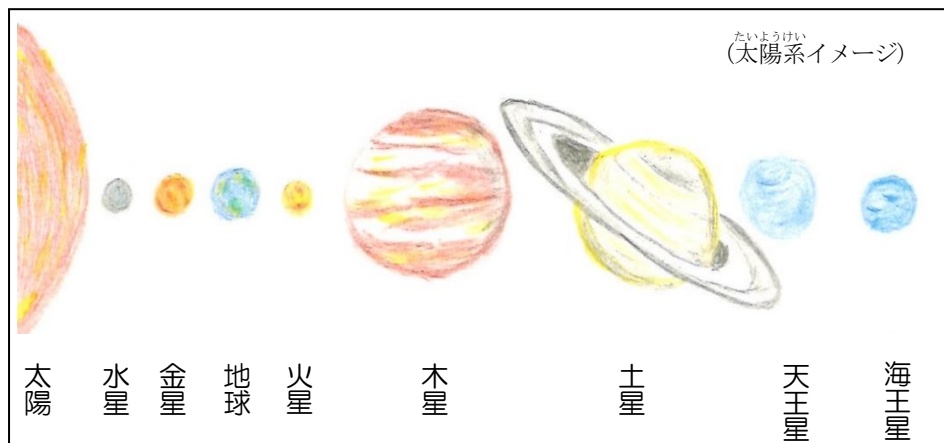
です。太陽系の惑星の中で、太陽からの距離が近い順番をあらわしています。

太陽系：太陽を中心まわっている星などの集団

惑星：太陽のようにほとんど動かない星のまわりをまわる星

以前は、冥王星という星も太陽系の惑星に含まれていましたが、現在は、

冥王星は準惑星に分類されています。



今年の夏、土星は8月15日ごろが一番見えやすくなります。環のある惑星

として有名な土星は、およそ30年

かけて太陽のまわりを1周します。

その間の15年ごとに、環が

一直線になって見えなくなって

しますが、今年は土星の環が

傾いていて、はっきりと見ることが

ができます。環の厚みは約1キロ

メートルと言われていて、地球か

ら見て環を真横から見ることにな

る数日間、環を見ることができな

くなります。

三滝少年自然の家にも天体望遠鏡があり、さまざまな星や月などを見る

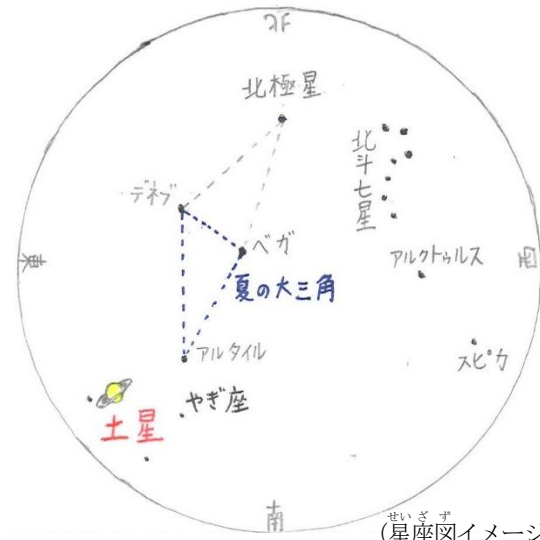
ことができます。望遠鏡は宿泊利用でご利用いただけます。ぜひ遊びに来て

ください。



宇宙にはみんなと同じように、無限の可能性があるよ☆彗

8月中旬、20時(午後8時)ごろの星空



(この図は空にかかげながら見てください)



とり こそだ 鳥の子育て

なつ とり 夏の鳥たち

なつ ま さか おお とり はる こそだ
夏真っ盛り、多くの鳥は春の子育てをほぼ
お いちだんらく だいひょうてき なつ とり
終えて一段落。代表的な夏の鳥であるツバ
メも、この春生まれたヒナは巣立ちはじめ、
しぜん いえ ちか げんき と まわ
自然の家の近くで元気に飛び回っています。



とり こそだ お よくとし こそだ し き せいかつ
鳥たちは子育てが終わると、翌年の子育ての時期までいろいろな生活
をしていきます。冬の餌の木の实などを集める鳥や、敵から身を守るた
めに群れになる鳥、餌を求めて暖かいところへ移動する鳥もいます。

とり こそだ 鳥の子育て

さて、とり こそだ ですが、おお とり では

- ① オスが「なわばり」を作り、大きな声でさえずってメスを引き寄せ
て「つがい(夫婦)」になり子育てをはじめます。
- ② 卵からヒナがかえると、オスとメスが餌を運んでヒナを育てます。
- ③ ヒナが巣立つと「なわばり」と「つがい」はなくなり、親鳥とヒナ
との家族もなくなります。



しかし中には
• 同じペアで毎年子育てをする鳥(ハシ
ボソガラスなど)
• 敵や危険を発見すると、まるでオスの
ようにメスもさえずり始める鳥(オオ

ルリなど)

- メスが卵を温めはじめると、ほかのメスと子育てをはじめめる鳥(オ
オヨシキリ、オシドリなど)
- 狭い範囲の中で集団で子育てをする鳥(ウミネコなど)
などがいます。

ひとまか こそだ 人任せな子育て

なか か こそだ
中でも変わった子育てをするのがカッコウ
の仲間です。(カッコウ、ホトトギスなど)
“托卵(たくらん)”といって、ほかの鳥の
巣に卵を産んで、子どもを“仮親”と
呼ばれる鳥に任せて育ててもらうのです。



その卵は先にかえって、仮親の卵を全部巣から落とし、仮親がせつ
せと運んでくる餌を独り占めにして育てます。

* 托卵相手の仮親 カッコウはホオジロ、オオヨシキリなど。ホトトギスはウグイスなど。

げんき すだ 元気に巣立ってね

とり じぶん しそん のこ こそだ おこな
鳥たちは自分の子孫を残すために子育てを行います。しかし、ヘビなど
に襲われたり、餌が足りなかったり、病気や事故など、厳しい自然のなか
でヒナが子育てができるようになるまで育つことは多くありません。
そんななか、無事に育ち、夏に巣立っていく幼鳥たち。次の子育てに
むけて、元気に過ごしてほしいですね😊

公益財団法人広島市文化財団
広島市三滝少年自然の家・広島市グリーンスポーツセンター
〒733-0802 広島市西区三滝本町一丁目 73 番地の 20
TEL082-238-6301 FAX082-238-6302
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/mitaki-c/>